

**令和4年度 全国学力・学習状況調査
教科に関する調査結果及び考察について**

保護者の皆様へ

白河市立表郷小学校長

令和4年4月19日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は6年生で、国語、算数、理科の3教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、児童の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均 正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語	65.6%	○				
算数	63.2%	○				
理科	63.3%	○				

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	69.0%	○				
我が国の言語文化に関する事項	77.9%					○
話すこと・聞くこと	66.2%	○				
書くこと	48.5%	○				
読むこと	66.6%	○				

【考 察】

- 「我が国の言語文化に関する事項」（漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと）に関しては、日頃から、授業や日常生活の中で、文字を書くときに読みやすい文字を意識して書くことを、継続して指導している成果が現れていると考えられます。今後も指導を継続していきます。
- 他の領域では、全国平均を下回りました。文章を正しく読み取ること、文章を読んで自分の考えをしっかりと、条件に合わせて書くことに課題が見られました。国語科の学習では、言葉を大切に正しく読み取ること、目的や意図に応じて自分が伝えたいことを分かりやすく書くことを重点的に指導していきたいと考えます。また、日常生活においては、読書の時間を確保したり、他の教科でも国語科で学習したことを生かすことができるようにしていきます。

【算数：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	69.8%	○				
図 形	64.0%	○				
変化と関係	51.3%	○				
データの活用	68.7%	○				

【考 察】

- すべての領域において全国正答率を下回りましたが、かけ算の計算や最小公倍数、割合の求め方など「数と計算」領域の正答率は全国平均以上か同程度で、基本的な計算の仕方は身につけています。基礎基本の定着を図った成果が表れています。
- 記述式の問題に無回答が多く、中でも、問題の場面からわり算の計算で求められる理由を記述する問題と比例関係から求め方を記述する問題が大きく全国正答率を下回りました。いろいろな問題に触れるとともに、その問題場面の解釈や必要な数量の関係性を考える場と、結果だけでなく思考過程や考えた内容を、根拠も含めて書く場を設定して継続的に指導していきます。

【理科：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
エネルギー	51.6%	○				
粒子	60.4%	○				
生命	75.0%	○				
地球	64.6%	○				

【考察】

- すべての領域において全国正答率を下回りましたが、「観察の記録や実験結果、グラフなどを基に問題解決の道筋を構想し、自分の考えをもつ」問題では全国正答率を上回りました。授業の中で、課題に対し「予想→実験・観察→結果の考察」を丁寧に行ってきた成果が表れており、問題解決に必要な視点や考え方が身についています。
- 他の領域と比べて「エネルギー」領域の正答率が低い結果となりました。3年生で学習した光の性質についての問題でしたが、「光はまっすぐに進む」などの基本的な性質は理解しているものの、適切に活用することができていませんでした。学習したことを自然や日常生活にあてはめて考察する場を意図的、計画的に設定し、活用する力を高める指導を行います。